令和2年度学校評価報告書

１ 本年度の重点目標

①問題解決能力の育成
②聞く力・発表する力の育成
③知識・技能の習得と理解の深化
④礼節と人間力を身に付け，高めること
⑤生徒のキャリア発達を図る進路指導の実践
⑥防災・減災の担い手を育成する

２ 自己評価結果に対する学校関係者評価

Ａ 達成している　Ｂ おおよそ達成している　Ｃ あまり達成していない　Ｄ 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	①現行の教育課程の効果的な運用と改善および，新学習指導要領に対応する新教育課程の完成について	B	県教委に提出した新教育課程及び学校設定教科・科目は，新学習指導要領内容との対応表作成が残っているので，令和３年５月上旬までの原案完成を目指す。	A	A
	②スーパーサイエンスハイスクール事業と関連させた教育課程や，学校設定科目に関する研究について	B	コロナ禍で条件制約がある中の実施だったが，一定の効果があった。カリキュラム・マネジメントの視点からも，更なる研究や検討を進める。	A	A
	③観点別学習評価に係る校内規程の改定について	B	３観点の具体の評価法等について専門家を招いた校内研修を実施し，全教員の理解をより深め，次年度早期の原案提示を目指す。	A	A
	④ICTを利活用した授業作りについて	B	多くの教員がほぼすべての教室で利用しており，ICTの利活用はほぼ定着したが，GoogleClassroom等での応用的な使用・実践ができるよう研修会等を実施する。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	・ICTへの対応は大変だったと思うが，質の高い内容と取組だった。 ・コロナ禍の影響を最も受けるのは２年生かもしれない。その後の進路に影響が出ないよう，学力などの推移を見守り，その対応策の検討が必要ではないか。				
生徒指導	①「時間厳守。礼儀。身だしなみ」に重点を置く基本的生活習慣の確立について	B	マスク着用により挨拶が曖昧になっている生徒も散見された。教員自らが相手に聞こえる，伝わるような指導を実践する。	A	A
	②保護者との連携を図り，校則を遵守する意識を醸成させる指導について	B	校則に関する問い合わせは，その都度丁寧に説明をしているが，曖昧な表記については改めることを検討し，今後もきめ細かな指導を継続する。	A	A
	③良識ある行動が取れる健全な人間形成について	B	交通マナーやスマートフォンの使用については交通事故防止，誹謗中傷の禁止等も含め継続した指導が必要である。	A	A
	④感染症対策として日常的で細やかな観察をもとにした，適切な指導・助言について	B	職員による健康観察とマスク着用・手洗いの励行，手指用アルコール消毒液の活用等を行ったが引き続き，感染予防対策を講じたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	・コロナ禍における活動制限がある中，生徒に満足される行事運営は大変素晴らしい。 ・大学と同様に1年生の指導が最重要なので様々な場面で十分なケアを進めてほしい。 ・生徒が安定した生活を送っている。今後も継続した指導をお願いしたい。 ・常に最新情報を発信し衛生環境の維持に努めてほしい。 ・巷であるような〇〇警察のような風潮には注意が必要と感じる。				

進路指導	①自己の適性，進路目標を具体的に設定した進路計画指導について	B	学年団の積極的な進路指導により細やかな生徒支援ができたが，担任の負担が課題となった。 面談時間の確保や副担任の具体的なサポート方法を検討したい。	A	A
	②課題研究や各進路学習等の活動実績を生かせる受験指導について	B	課題研究を入試に活用する場合の指導や，小論文やレポート指導等，一部教員への加重負担が見られる。教科全体での指導等，負担軽減策を検討する。	A	A
	③模試等の結果分析を行い，改善点及び事後指導等の具体的対応について	B	模試成績等，努力に反して結果が伴わない生徒についても，過程を評価しつつ,教科面談や個別指導等で根気強く指導していく。	A	A
	④生徒への進路学習，保護者への進路に関する説明，教職員への情報提示について	B	コロナ禍の影響でオープンキャンパス等の校外行事が限定的となってしまったが，オンラインを中心に対応した。次年度以降も臨機応変に対処したい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	・総合型選抜への対応など，組織的にしっかりとした指導がなされていた。 ・自宅で過ごすことが多くなっているので推進図書を準備して読書の機会を増やすのも一案。				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
特色ある学校づくり	①防災教育の充実について	B	今年は様々な行事が中止となったが，その中でもオンラインでの外部講師招聘や，県外高校との交流ができた。次年度以降もオンラインを積極的に活用し諸活動に取り組む。	A	A
	②スーパーサイエンスハイスクール事業について	B	各学年において計画の変更は多々あったが，課題研究等での科学的な発表はZoomを活用し例年に近い本数を実施できた。 運営面での計画・実施については,教員間で今後も十分な情報共有を図る。	A	A
	③学校広報や各種教育活動の紹介，危機管理に関する情報発信について	B	新型コロナウイルスの影響で「Webオープンスクール」をＨＰ上に開設し学校紹介したが，次年度以降も非対面での広報手段を工夫する。災害や感染症に係る緊急メールについても早めに配信し，大きな混乱はなかった。一部システムの特徴によりメールの受信がスムーズに行かないケースもあり，改善策を検討する。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	・家計急変家庭への経済支援策の周知やPRを積極的にお願いしたい。 ・コロナで行動が制限される中，広報誌やHP等で学校の情報を発信してほしい。				

３　次年度の課題と改善方策

	次年度の課題	改善方策
①	教育課程特例校としての申請準備と観点別学習評価に係る校内規程の改定について	新教育課程及び学校設定教科・科目は，県教委への提出を終えたが，新学習指導要領内容との対応表の作成が残る。教育課程特例校として文科省への申請も控えており原案完成後も，柔軟に対応し申請業務が円滑に進められるよう準備したい。また，同時に観点別評価に関しての校内規程改定と教員への落とし込みが急務であり，研修会の実施等計画する。
②	生徒指導に関する諸規定の見直し	教員の「基本的生活習慣の指導」に関しての評価が３年連続で下降している。現行の校則の一部に曖昧な表現があり，指導の際に共通認識が図られないことが原因と考えられる。生徒側は校則を遵守していると認識していることから，保護者も含み互いに受け入れられる表現で改定する作業に入る。
③	「いじめ問題に対する取組」の情報発信について	今年度の学校評価において，教職員と生徒・保護者の評価が最も乖離していた「いじめ問題に対する取組」について，この項目については，学校側の丁寧な取組が見えにくくなっており，例年，生徒・保護者の評価が低い。いじめ調査の実施やその結果，SNS等によるいじめ防止策の紹介など学校での取組を生徒指導部だより等で積極的に発信していく。